休憩時間の事故防止パンフレット

# なくそう！休憩時間の事故

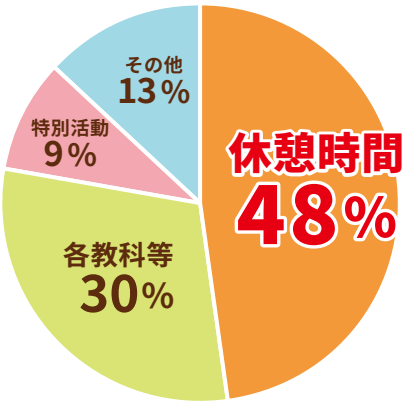
JAPAN SPORT COUNCIL

# 休憩時間の事故を未然に防ぐ努力をしましょう！

　授業の合間にある休憩時間は、子供たちにとって自由に遊べる楽しい時間ですが、教職員の目が行き届かなくなる分、事故も多くなります。

　このパンフレットでは、そんな休憩時間の事故を防ぐための情報を掲載しています。ぜひご活用ください！

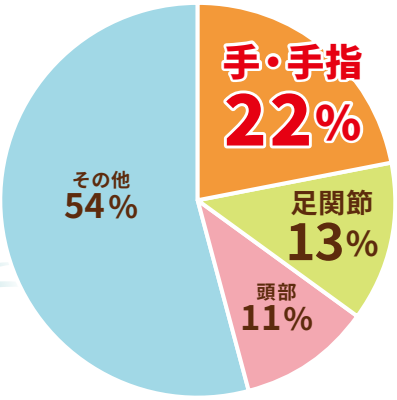
## 小学校ではいつけがをしているか？



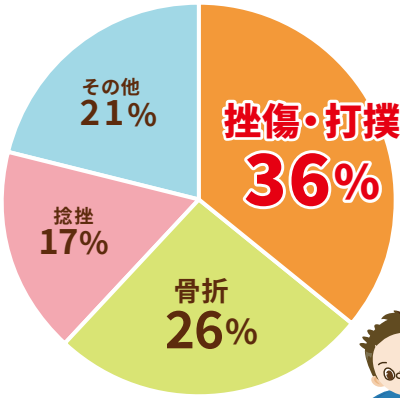

小学校では事故のうち約半分が休憩時間に起きているんだね

## グラフで見る小学校での休憩時間事故の傾向

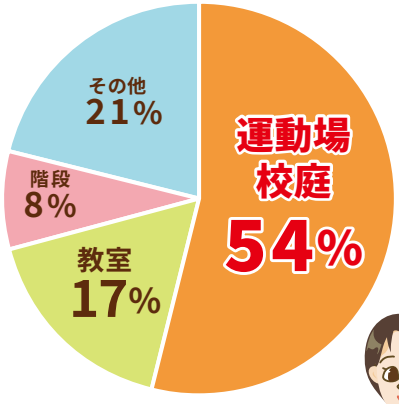
## どこにけがをしたか？




## どんなけがをしたか？



## どこでけがをしたか？



安全教育と 環境整備のどちらも大切だね

※休憩時間の事故とは、学校の管理下の「休憩時間中」、「昼食時休憩時間中」、「始業前の特定時間中」、「授業終了後の特定時間中」の事故を総じたものです。

※本パンフレットにおける統計情報は、令和元年度災害共済給付データによるものです。

# 休憩時間に
# こんな事故が起きています

休憩時間の事故は、小学校だけで年間約15万件発生しています。
学年を問わず、多く発生している事故の、実際の事例を見てみましょう。

事例

## 通せんぼする友達から逃げて ドアにぶつかり歯を脱臼

廊下を走っていて友達に通せんぼをされ、振り払おうと逃げた。その際、勢いがつき教室の入口のドアに口唇部を打ちつけた。

事例

## 昇降口の段差で 転倒して手を打撲

業間休みが終わり、教室に戻るため走っていて、昇降口の付近で段差につまづき転倒した。その際に左手の小指を地面に打った。

事例

## 階段で転倒して足を捻挫

下校のため、昇降口に向かう途中、階段で友達とじゃれあって遊んでいたところ、足を踏み外し右足首をひねった。

事例

## 体育館の雨漏りで 滑って口を打撲

体育館で鬼ごっこをしていて、体育館の雨漏りにより床が濡れていたため、滑って転倒し、口元を床にぶつけた。

たびたび発生する多くの「よくある事故」の中で、ときに取り返しのつかない死亡事故や、後遺症が残り、子供たちの将来の生活の質を損なう障害事故が発生するのです。

死亡事故や障害が残る事故も起きています

事例 **雲ていに結びつけたパーカーが首にかかって窒息**

昼休み、運動場で雲ていをして遊んでいた。自分のパーカーの袖を雲ていに結びつけた状態で遊んでいると、パーカーが首にかかってしまい、ぶら下がった状態になった。すぐに、病院に搬送し、治療を受けたが数日後に死亡した。(小４男子(窒息死))

事例 **チャンバラをして投げた三角定規が左眼にあたり負傷**

休み時間、友人と３人で廊下でものさしや三角定規を使用してチャンバラのようなことをして遊んでいた。1名の児童が投げた三角定規が、かがんでよけた本児童の左眼に当たり、負傷した。
(小4男子(視力・眼球運動障害))

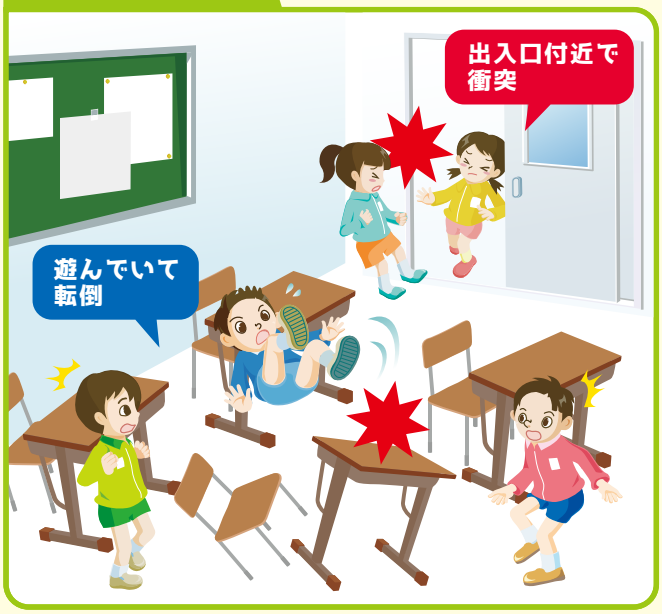
(学校事故事例検索データベースより)

# 休憩時間の学校・・・
# どこで起きる
# どんな事故に
# 特に注意するべき??

小学生の子供たちが、学校生活を事故なく過ごし、健やかに成長していくためには、これまでに起きてしまった事故について、客観的に分析し、その傾向を参考に、具体的な対策を立てることが求められます。

今回、令和元年度に発生した休憩時間の事故について、
**発生回数の多さ**と**けがをする（させる）危険度の高さ**という２つの観点から分析し、**学校内の場所ごと**また**低学年**と**高学年**に分類したところ、以下のような結果となりました。（※赤は低学年、青は高学年に特徴的な事故です。）

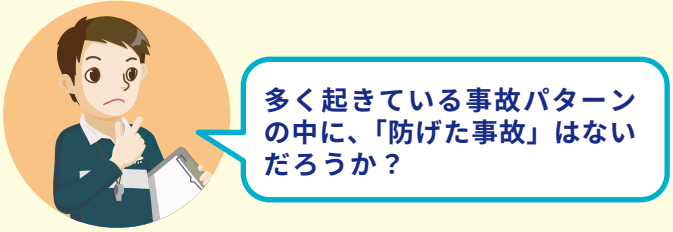
## 教室




## 校庭

## 体育館

## 昇降口



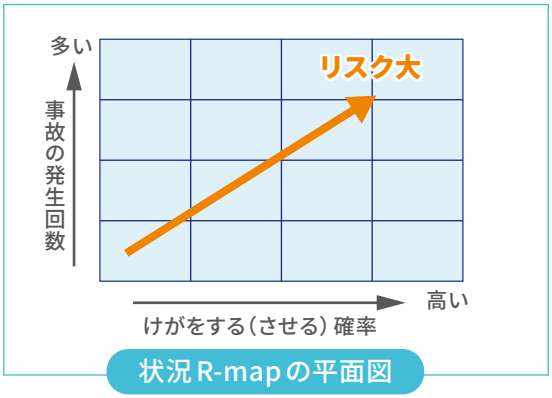
# 防げる事故はどれか、そのための対策は何か・・・

起きてしまった事故のデータを基に、効果的な事故防止対策を立てましょう！

4ページに掲載している、休憩時間の事故の場所別の分析にあたっては、JSCの共同研究機関である国立大学法人東京工業大学（西田佳史教授及び尾崎正明氏）の協力を頂き、危険の評価方法の1つである状況R-mapという手法を用いて行いました。

状況R-mapとは、平面図の縦軸を事故の発生回数、横軸をけがをする（させる）確率とし、全ての事故をこの平面図にプロットしたものです。

状況R-mapでは、発生回数が多く、危険度も高い出来事が、図の右上の方にプロットされます。そのため、右上にある出来事が、対策を立てるべき事故として優先付けを行うことができます。




状況R-mapの平面図

JSCの災害共済給付の対象となる学校事故は、年間95万件、休憩時間の事故だけでも、1年で15万件にのぼります。

事故の状況を把握するために、膨大な事故データを人が手作業で分析するのは困難であることから、今回、研究機関で開発したテキストマイニング手法（状況リスク比分析）を用いて分析しました。

## 小学校向けワークシートを提供しています

本調査研究の分析結果を生かした小学校向けワークシートを、指導案とともに学校安全Webにて公開しています。PDFで提供していますので、タブレット用教材としてもお使いいただけます。ぜひご活用ください！

● A4表裏計2枚（校舎内編・校舎外編）

# 休憩時間の事故 未然防止チェックリスト✓

授業中の緊張感から解放される休憩時間は、子供たちの事故の多い時間帯のひとつです。
小学生の危険予測能力や判断力、体力や運動技能の点はまだまだ成長の途中であり、
そのことが事故の大きな要因でもあります。
事故をなくすために、学校現場がとるべき「未然防止策」とは・・・？
チェックリストに沿って点検しましょう！

- [ ] 1. 安全に関する情報・知識の収集に努めているか。
- [ ] 2.「安全点検表」で毎月の安全点検を確実に行っているか。
- [ ] 3. 固定施設・遊具の安全点検を定期的に行っているか。
- [ ] 4.「休み時間のルール」を子供たちに周知し、徹底を図っているか。
- [ ] 5. 看護当番※が、日々の看護・点検を確実に行っているか。

※　その日ごとに日常点検や安全指導を担当する教員のことで、学校によって「週番、日直」等様々な呼び方があります。

- [ ] 6. 教員の気付きを学校全体で共有しているか。
- [ ] 7. 危険予測・回避能力育成のための指導を行っているか。
- [ ] 8.「危機管理マニュアル」の流れを教職員間で共有できているか。

## チェックリストについて詳しく解説！！

### 1. 安全に関する情報・知識の収集に努めているか。

過去の事故事例(※1)から自校で起りうる休憩時間の事故への取組を共有し、教職員一人一人の危機意識や危険察知の感覚、知識を高めていくことが求められています。

### 2. 「安全点検表」で毎月の安全点検を確実に行っているか。

安全点検の精度を高めることが求められています。そのために、安全点検表の見直し(※2)、毎月ローテーションで点検する場所を変えるなどの工夫が必要です。

### 3. 固定施設・遊具の安全点検を定期的に行っているか。

固定施設・遊具の点検は、目視でなく、触ったり、叩いてみたりしての点検が求められます。そして、年に１度は専門業者の点検を受けることが必要です。

### 4. 「休み時間のルール」を子供たちに周知し、徹底を図っているか。

同じルールで全教員が指導することが必要です。その徹底が、子供同士の注意のしあいを生み出していきます。また、ルールは自校の実態に合わせて毎年見直しを行いましょう。

### 5. 看護当番が、日々の看護・点検を確実に行っているか。

当番の教員が、毎日休憩時間に分担して校舎内、校庭を巡回し、子供たちの行動把握、注意喚起をし続けることや危険箇所を見付けた時は即座に対処することが求められます。

### 6. 教員の気付きを学校全体で共有しているか。

毎週、教員が気付いた危険情報を学校全体で共有し、全校朝会や学級で指導を行うことも事故抑止につながります。

### 7. 危険予測･回避能力育成のための指導を行っているか。

子供自らの危険予測・回避能力の育成が求められます。そのためには、安全に関する指導や安全に関する授業を定期的に行う必要があります。

### 8. 「危機管理マニュアル」の流れを教職員間で共有できているか。

事故が起きたとき、自校の「危機管理マニュアル」に従った行動が求められます。また、負傷後の部位ごとの対応についても、しっかり理解しておく必要があります。

※１：過去の事故事例は、独立行政法人日本スポーツ振興センター『学校安全 Web』の「学校事故事例検索データベース」で閲覧・検索できます。
※２：「安全点検表」の一例として、文部科学省発行の学校安全資料『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』を参考にしましょう。

# まとめ

## 小学校では、子どもの事故の約半数が休憩時間に起きています
## チェックリストを用いて、事故の未然防止に努めましょう！

小学校では、学校全体に関連した事故の約半数が休憩時間に発生しています。事故の半分以上が運動場や校庭で起きており、次に多いのが教室や階段での事故です。事故防止のために、あらかじめ「安全点検表」を作成し、毎月の安全点検を行いましょう。また、事故が起きたときの対応を含めて「危機管理マニュアル」を整備し、関係者間で共有しておくことも重要です。

さらに、子供たちには「休憩時間の過ごし方に関するルール」についてわかりやすく教え、理解を促す取組をお願いします。日本スポーツ振興センターのホームページ（学校安全web）には、学校現場での事故防止のための啓発資料や事故防止の取組の実例を紹介しています。学校現場での「安全点検表」や「危機管理マニュアル」の策定の際に、ぜひご利用ください。

令和３年度学校災害防止調査研究委員会「休憩時間の事故防止対策」専門部会が、令和元年度に小学校の休憩時間に生じた約15万件の事故（低学年約７万件、高学年約８万件）データを解析しました。本パンフレットは、その概要を述べるとともに、小学校の教職員の方を対象とした事故の未然防止のチェックリストをお示ししたものです。


**執筆者一覧　（法人名・敬称略）**

◎は部会長

◎ 五十嵐　隆：　国立成育医療研究センター理事長
木間　東平：　全国学校安全教育研究会会長（葛飾区立柴又小学校校長）
西田　佳史：　東京工業大学工学院機械系教授
森本　晋也：　文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育調査官


### 固定遊具の事故に関する詳しい調査資料はこちら

**「固定遊具の事故防止マニュアル」**
**～学校（園）における安全教育・安全管理のポイント～**

設置状況調査結果、災害共済給付データを踏まえ、有識者による事故防止のポイントをまとめました。すぐに使えるワークシートも掲載しています。
※Web掲載のみ

固定遊具の事故防止マニュアル

### 学校安全Webでは事故防止に役立つ資料を掲載しています

学校安全Webでは、事故防止の啓発資料や、JSCの資料を用いた学校現場での取組を掲載しています。

令和４年２月初版
編集・発行：独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全部
TEL：03-5410-9154
URL：https://www.jpnsport.go.jp/anzen/



※本パンフレットを学校の様々な活動で使用することを目的とする場合に限っては、コピー、送信、配布等のあらゆる非営利目的の利用が可能です。
その他の目的による複製、転載、引用等については、必ず下記サイトをご確認ください。
URL：https://www.jpnsport.go.jp/anzen/tabid/520/Default.aspx

学校教育OK